

## 福室小学校における東日本大震災の記録

### 1 3月11日のできごと

#### ○震度6強の揺れ 午後2時46分

卒業式の練習に体育館へ向かう途中、渡り廊下で風が吹いたように揺れた。

初め、地震とは気付かず、体育館に入ると突然激しい横揺れが襲った。子どもたちは、北側、中央、南側と分散し、しゃがみ込んでいた。体育館が壊れそうなぐらいの激しい横揺れが、1分近く続いた。

揺れが、少し弱まったので、スクリーン下の児童を、安全な場所へ移動させたが、恐怖のあまり、児童は身動きがとれなかった。こちらで、落下物から児童を上からかばい、ようやく安全な場所へ移動させた。

少しして、更に激しい横揺れが、まるで何かに連続的に押されるように続いた。

おそらく3分ぐらい、震度6強の地震が続いたのではないかと思った。気持ちとしては、永遠に続くのではないかと思えるほど、恐怖心が高まった。

宮城県沖地震は、下から突き上げる激しい揺れだったが、今回は、横揺れで振幅が大きく、また揺れの長さも今まで経験したことがないほどのものだった。



地震直後の職員室

#### ○避難 午後2時50分頃

激しい揺れが、収まった後も、震度4程度の揺れが、しばらく続いた後、ようやく揺れが収まり、ピロティを通過して校庭へ誘導した。

校庭には、到る所に地割れが生じ、遊具近くでは液状化によるものか、水がわき出てきた。

(後に地下貯水タンクから漏れた水と判明)

校舎へ戻ると中央階段を通過して、児童が降りてきた。平然としている児童もいたが、恐怖心で泣き叫び、やっとのことで階段を降りてきた児童もいた。

校庭には、避難した児童がぞくぞく集まってきた。教頭が中心になり、児童の状態を把握し、学級ごとに整列させた。

一部、保護者が集まり始め、確認できた児童から、引き渡して下校させた。



地下貯水タンク付近

#### ○余震

校庭では、時おり震度4程度の余震が発生した。(5分以内の短い間隔で)



校庭の地割れ

### ○地域住民の避難 午後3時ごろ

3時頃には、地域住民が避難してきた。「家の中がちらかって、とても家にいられない。足腰が弱い年寄りだから、体育館へ入れて避難させてほしい。」との要望があり。

10名ほどだったが、体育館の安全確認もしていない状態だったので、安全確認まで待つて欲しいと伝えた。

### ○児童の様子 午後3時30分頃

校庭で、保護者が来るのを待っていたが、なかなか集まらず、雪が降ってきた。トイレに並ぶ児童も多く、担任以外の教員が整列させた。

保護者への引き渡しがある程度進んだところで、雪も降ってきたため児童を校舎1階のおひさま3学級へ移動させる。

余震が来るたびに児童を校庭へ避難させた。



仙台港方面

### ○近辺の様子 午後3時50分頃

迎えに来た保護者が、中野の方に津波がきているとの情報があったので、屋上へ上がり、様子を見ると、津波は見えなかったが、救急車や消防車のサイレンとともにヘリコプターが、多数飛んでいた。

この時間頃、仙台港に津波が来襲。

空は、雪が混じり、見通しが悪い。



蒲生付近の火災

### ○近辺の様子 午後4時40分頃

蒲生付近と仙台港付近で火災が発生し、学校屋上から煙が見えた。ラジオでは、大津波警報の発令が中心で、各地の被害の状況が全くつかめない。

### ○児童の待機

暗くなってきて、少しずつ児童の引き取りが多くなってきた。午後6時頃で200名位残っていた。

更に暗くなり、ろうそくを灯し、児童へ職員室にあったおやつと水（備蓄飲料）を配った。



ろうそくの明かり

### ○ 学校近隣にてプロパンガス漏れ発生

### ○児童の引き渡し 午後10時50分

全児童の引き渡しが完了。



コンビナート火災

## ○コンビナートでの火災 午後10時30分

J X日鉱日本石油仙台工場で火災が発生し、火柱が激しく上がる。

## ○避難所の様子 午後11時頃

避難所には、900人ほど詰めかけ、ぎゅうぎゅう詰めの状態であった。

校庭にも多数の車が止まり、車中で夜を過ごす人も多かった。

初めは、余震があったため、ストーブの使用は控えたが、寒さが厳しかったため、石油ストーブを使用した。当初の避難所運営は、学校職員、宮城野区の担当者が中心になって行った。



## 2 3月11日以後のできごと

### 3月12日(土)

石油コンビナートの煙が、かなり遠方まで広がってきた。学校近辺でも匂いがしてきた。

断水しているため、本校が朝8時から給水所になった。午前中は、北門からピロティに車両を誘導し、校庭に駐車させた。給水に並ぶ人は、校庭を1周し、2時間以上待つ状態になる。

避難所は、体育館とおひさまの2教室及び保健室を開放した



### 3月13日

石油コンビナート火災の煙が更に広範囲に広がった。ライフラインは、一切回復せず。

避難所は、新聞も届けられて少しずつ情報を得ることができるようになってきた。支援物資は不足しているが、1日2食はなんとか確保している。

災害ボランティアや町内会の活動が始まり、少しずつ自主的な避難所運営が始まってきた。



### 3月15日

22:30 電気復旧により水道使用可。

### 3月18日

電気復旧により、24日の修了式についてメール配信を行う。



3月24日

修了式

体育館が避難所で使用できないため、テレビ放送を使って行う。

3月26日

避難所閉所。職員当直解除。

3月28日

福室市民センターを会場に卒業式

3月29日

離任式



卒業式

4月7日

午後11時32分頃 震度6強の地震発生。近隣の住民30～50名が、「津波が来る」と不安な表情で避難して来た。不測の事態に備え3階の家庭科室に誘導した。

4月8日 学区内の安全確認

余震による被害が、大きかったため、職員で通学路の安全確認を行った。場所によっては、ブロック塀が倒れ、建物の屋根の破損、壁の亀裂などが見られた。また、道路や歩道の段差が、以前よりひどくなった場所が見られた。



余震によるブロック塀の損壊

4月11日 始業式・入学式

始業式の前日までに、危険物の撤去や危険な場所への立ち入りが制限され、通学路は確保された。

近隣の状況

4月7日に岡田、南蒲生、仙台港方面へ状況確認に行く。七北田川の堤防沿いに河口へ向かっていくと、高砂中学校付近から、津波による浸水が見られた。また、津波によって家や車が流され、七北田川を遡っていった様子が伺えた。岡田から、南蒲生では、未だに海水が引かない場所があり、大きなタンクや松がたくさん散乱していた。仙台港は、工場の被害とともに、中央公園下の岸壁が、津波により大きくえぐられ、津波の破壊力のすさまじさを目の当たりにした。



南蒲生



仙台港中央公園下の広場